



自然環境保全

2032年に樹木被覆率を30%まで回復

ケニア 持続的森林管理・景観回復による森林セクター強化及びコミュニティの気候変動レジリエンスプロジェクト

森林の再生や減少抑制が急務

国土の約8割を乾燥・半乾燥地域が占めるケニアでは、貴重な森林資源が人口増加や土地利用の変化などにより失われつつあります。特に2020年からの3年間は十分な雨が降らず、国連機関の発表では250万頭の家畜が死に、約94万人の5歳未満の子どもが栄養不良に陥る状況が発生しています。



農家に乾燥地耐性に優れた在来樹種であるメリアの枝打ち方法を指導するカウンターパート

ケニア政府は、2032年に樹木被覆率を30%まで回復させることを目標に、流域保全、植林や森林再生、森林減少・劣化の抑制に取り組んでいます。

経済性のある植林を通じた持続的な森林管理

JICAは宇宙航空研究開発機構(JAXA)と共同で、世界77カ国にある熱帯林の変化をオンラインで監視できるシステム「JICA-JAXA熱帯林早期警戒システム(JJ-FAST)」を開発し運用しています。JICAは、このJJ-FASTの情報を活用してケニアの国家森林モニタリングシステム(NFMS)の構築に協力。NFMSは、国レベルで森林の温室効果ガスの吸排出量を観測できる信頼性の高いシステムで、国の政策決定が具体的なデータに基づいて行えるようになるなど、樹木被覆率の向上や温室効果ガスの排出削減に向け大きく役立つものです。

2022年2月から始めたプロジェクトでは、ケニ

ア環境森林省のNFMSを用いた森林政策の立案と実施能力の向上に協力。経済的な利益も得られるコマーシャル・フォレストリーや半乾燥地帯に適した林木の育種などを推進することで、ケニアの林産業を育成し、気候変動に対する住民のレジリエンス(強靭性)を強化するとともに、政府が掲げる樹木被覆率の達成につなげています。また、こうした取り組みはケニア環境森林省の職員により、他のアフリカ諸国へもさまざまな機会に発信・共有されています。

さらにプロジェクトでは、4つの小学校でバオバブとメリアの植林プログラムを開始。バオバブの若葉は栄養価が高く、子どもたちの栄養改善に役立ちます。また、メリアの木材は不足している学校机へ利用するなど、地場産業の育成にも貢献することが期待されています。

VOICE

COP27で大きな収穫がありました

JICA専門家
農林水産省林野庁
井上泰子さん



2022年11月に開催された気候変動枠組条約第27回締約国会議(COP27)のサイドイベントに環境森林省のカウンターパート4名と参加しました。ケニアと同様にNFMSを構築した他国の関係者と経験を紹介し合うことで国際社会からも注目が集まり、カウンターパートは「取り組みへのモチベーションが高まった」と話してくれました。



カウンターパートが登壇したCOP27サイドイベント